## 今月の PICK UP

**『チャリング・クロス街84番地 増補版』**
**ヘレーン・ハンフ/編著 江藤 淳/訳 中央公論新社** 935.7 ハ

ニューヨークに住む本好きの女性と、ロンドンの古書店勤めの男性のやりとりを収めた書簡集。まだ大戦の傷跡も残る1949年に本の注文からはじまった文通は、紙の本に対する愛着と互いへの信頼を積み重ねて20年にわたり続きます。一度も顔を合わせることのなかった2人ですが、その間には確かに温かな感情が通っていました。手紙を書いた女性の側であり、この本の編著者であるヘレーンは後日談として次のように書いています。「人々がおたがいに意思を疎通することなんかできないと信じているのは、孤独と同様、妄想にすぎないのです。」

## 司書のおすすめ

**『美しい変形菌』 高野 丈/写真 パイ・インターナショナル** 473.3 タ

表紙のキラキラした写真に目を奪われます。さて、これはなに?
これは変形菌（またの名を粘菌）というもので、庭や公園、森にある倒木や落ち葉の上に見られる生きものです。目立たない生物ですが、環境に合わせて柔軟にそしてかしこく生きています。
「森の宝石」とも呼ばれる美しい変形菌の写真にワクワクして、実際に会いに行きたくなります。

**『しめかざり』 森 須磨子/著 工作舎** 386.1 モ

大学の卒業制作を機にしめかざりに興味をもった著者。その後約20年近く、毎年、年末年始に全国各地をまわって集めたしめかざり本体の写真が、地元の人や職人から聞き取った話と共に本書に紹介されています。しゃもじ、魚、眼鏡など、その形は驚くほど多種多様で、由来やそこに込められた願いも知ることができるので、来年のお正月はしめかざりをひと味違った見方ができることと思います。

**『料理大好き 小学生がフランスの台所で教わったこと』**
**ケイタ/著 自然食通信社** 596.2 ケ

ケイタの行動力には感動です。著者であるケイタは、山の中の農家で暮らす小学5年の男の子です。彼は、腸閉塞の手術をきっかけに、料理修行の旅に出かける計画を立てます。
まず、クラウドファンディングで費用を集め、鍛冶屋で包丁を作りました。そして、2週間学校を休んで向かった先はフランスのパリでした。修行の結果は、300点の写真とレシピの数々を通して紹介されていますので、楽しみながら読むことができます。 **【ティーンズコーナーにあります】**

**『一盌（いちわん）をどうぞ 私の歩んできた道』 千 玄室/著 ミネルヴァ書房** 791.2 セ

著者は41歳から79歳まで第15代裏千家家元を務め、現在98歳です。家元長男として、生まれた時から次期家元として育てられました。家元襲名後、世界中を巡り日本文化を伝え、一盌のお茶を通して各国要人との交流を深める中で、相互理解、平和の重要さを語ります。昭和の戦争を経験し平成・令和を生きる著者の言葉は、ずっしりと心に響きます。日本に生きる私たちが、これから歩む道について、ヒントになる一冊です。